

おすすめの子どもの本

2018



■2016年10月から2017年10月に出版された本の中から、特におすすめする本を選び、
子どもの本に関わる大人の方へお伝えするために作成しました。

■本の情報は、書名、著者名、出版社名、図書館での分類記号、対象年齢の順になっています。

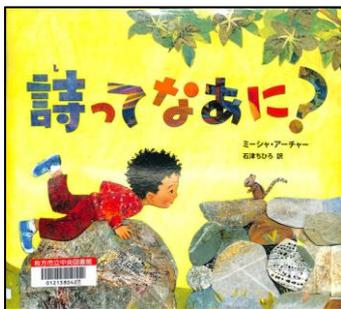
2018年4月発行 発行者：枚方市立中央図書館児童サービス委員会 電話 050-7105-8121 F A X 072-851-0962

えほん

詩ってなあに？

ミーシャ・アーチャー／作 石津 ちひろ／訳
BL出版 エホソーアチ【幼児～小学校中学年】

ダニエルは「詩の発表会」のポスターを見て仲良しの動物たちに「詩ってなあに？」とたずねていきます。発表会の当日、みんなの答えをつなげていくと、詩になっていまし



た。自分の言葉で紡いだものではありませんでしたが、自分の中の詩を見つけることができたようでした。小さな子が質問しながら自分なりの答えを見つけていくストーリーからは、答えは1つではないというメッセージを感じます。油絵とコラージュを組み合わせた暖かい色使いの絵は、哲学的に感じる「詩」を親しみやすいものになっています。

ちゅうちゅうたこかいな

新井 洋行／作
講談社 エホソーアラ【幼児】

「ちゅうちゅうたこかいな」の拍子にのって壺の中から現れたのは、たこ。そのあとは「ちゅうちゅうたこかいな」と歌うたびにさまざまな「な」のつくものが壺から出てきます。言葉の繰り返し



と、何が出てくるのかな？と考えるための間もあって、ご家庭での読み聞かせはもちろん、おはなし会などでも楽しむことができます。イラストは全体的に愛嬌があって大人から子どもまで楽しめる絵本です。

ヒルダさんと3びきのこぎる

クエンティン・ブレイク／文
エマ・チチェスター・クラーク／絵
むらおか みえ／訳 徳間書店 **エホノークラ**
【幼児～小学校低学年】

ヒルダさんは、飼っている3匹のこぎるを可愛がっていました。しかし、こぎるたちのいたずらはどんどんひどくなり、ヒルダさんもうついに我慢ができなくなります。ある日、ヒルダさんが強く言い聞かせ出かけて帰ってくると、こぎるたちが家のどこにもいません。大慌てで家中を探し回るヒルダさんですが、こぎるたちが見つからず途方にくれてしまいます。こぎるたちのいたずらと、それに振り回されるヒルダさんの愉快的な様子がカラフルな絵で描かれています。ユーモアたっぷりのラストにくすっと笑える楽しい絵本です。



おふくさんのおふくわけ

服部 美法／ぶん・え
大日本図書 **エホノーハツ** 【小学校低学年】

おふくさんたちは、みんなふくふく、毎日にこにこ暮らしていました。おふくさんたちがご飯を食べ終わった頃、「うまそうなおいだな。おれにもくわせろ。」と鬼がやってきました。残っていたのは、おもいが一つしかありません。おふくさんたちは、おもいを困んで考えて、鬼と一緒においしいものを作ることにしました。腹ペコで怒っていた鬼も料理を作るうちに、にこにこ顔に変わっていきます。おいしくできた料理をみんなで分けておふくわけ。笑うかどには福来る。食べるかどにも福来る。おいしい満腹絵本です。



この本をかくして

マーガレット・ワイルド／文
フレヤ・ブラックウッド／絵
アーサー・ピナード／訳
岩崎書店 **エホノーフラ** 【幼児～小学校低学年】

戦争によって故郷を追われ、ようやく外国へ逃げ延びた少年が立派な青年へと成長し故郷へ帰ってきます。そして逃亡中に亡くなった父から託され、ある木の根元に埋め隠した1冊の本を掘り起こします。戦時中爆撃され破壊された図書館の唯一残された蔵書です。自分達の歴史を綴ったその本を何度も読み返した後、青年は、今はすっかり新しくなった図書館へきつと誰かが読んでくれることを願って、その本を返しに行きます。コラージュ風の絵は独特の立体感があります。戦火を生き延び、全てを捨ててでも、民族の歴史と文化を記した大切な1冊の本を伝えようとする主人公の姿に、心を打たれる絵本です。



走れ!! 機関車

ブライアン・フロッカ／作・絵
日暮 雅道／訳 偕成社 **エホノーフロ**
【幼児～小学校低学年】

1869年の夏、アメリカ合衆国ネブラスカ州オマハの駅で、はるか西の海岸地域までいく旅に出ようとしています。カンカンカンという鐘の音が聞こえ、煙をはきながら機関車が近づいてきました。いよいよ旅の始まりです。

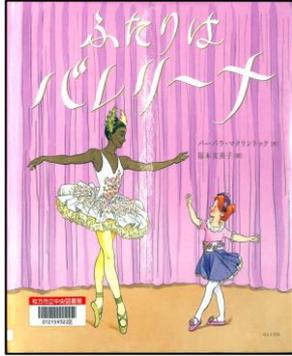


この絵本は、完成して間もない大陸横断鉄道で、東のオマハ駅から西のサクラメント駅までいく旅を描きます。絵は大きく、迫力のあるタッチで描かれており、親子で19世紀後半のアメリカでの汽車の旅を楽しめます。大陸横断鉄道や当時の機関車について詳しく解説したページもあり、大人の方にもおすすめです。

ふたりはバレリーナ

バーバラ・マクリントック／作
福本 友美子／訳 ぽるぷ出版 **エホナーマク**
【小学校低学年】

エマとジュリアは、年齢も人種も異なりますが、バレエのレッスンに通っているという共通点があります。この物語は、そんな2人の朝起きてから、朝ごはんを食べ、バレエのレッスンに出かけるという、それぞれの一日を並行して描くところから始まります。そして、ジュリアが踊っているバレエの舞台を、エマが見に行くところで、2人の世界は繋がります。エマから見るとジュリアはあこがれの未来、一方ジュリアから見るとエマは懐かしい自分の姿なのです。同じバレエという絆で結ばれた二人の、どちらの思いにも共感できる、じんわり心に残る絵本です。バレエを踊る人物の姿も繊細な絵で魅力的に描かれています。



ゆめみるハッピードリーマー

ピーター・レイノルズ／ぶん・え
なかがわ ちひろ／やく
主婦の友社 **エホナーレイ**【幼児～小学校低学年】

主人公は夢見ることが得意な少年で、彼の心の中には色々な夢がくるくるきらきら渦巻いてきます。夢がひょっこり湧いてきて、彼の心をつかんで揺さぶると、身体が動き、周りから注意されます。それでも主人公は自分には、夢を生み出す力があることを思い出します。彼は、面白いことを見つける天才のハッピードリーマーなのです。この絵本は、大切なのはきみがきみでいることで、そのままのきみでいいんだと教えてくれます。ADHD（注意欠如多動症）であった著者自身の物語で、自分らしく生きることが大切で、自分は特別に恵まれた頭脳の持ち主だと喜んでほしい、というメッセージを伝えてくれる絵本です。明るい色彩の絵と詩的な文章に優しい気持ちになれます。



ちいさなうさぎのものがたり

アルヴィン・トレッセルト／ぶん
レナード・ワイスガード／え
安藤 紀子／やく ロクリン社 **エホナーワイ**
【幼児】

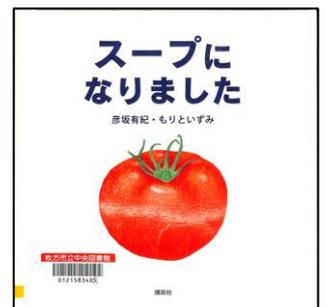
春に生まれた子うさぎの赤ちゃんが生きていく術を学びながら成長し、ひとり立ちして母うさぎとして再び命を繋いでいく様を、静かな筆使いで描き出した絵本です。途中人間の罠にかかり、食べられてしまうのではないかとハラハラしますが、人間の手から逃げ出し、自然の世界のなかで母ウサギとなり、自分の子に乳を飲ませるところは、命のいとおいしさや尊さを感じさせます。茶色単色の深みのある絵が特徴の、落ち着いた印象の味わい深い作品です。



スープになりました

彦坂 有紀・もりと いずみ／作
講談社 **エホナーキローヒコ**
【乳児～幼児】

いろいろな野菜が、おいしそうなおスープになりました。にんじんは、とろーりスープになりました。じゃがいもは、とろんとろんのスープです。トマト、えだまめ、ほうれんそうと続いて、最後はとうもろこしがスープになりました。浮世絵の手法で摺られた木版画のおいしそうなおスープの絵と、飲みほすときの擬音のリズムが食欲をそそります。同じ著者による木版画絵本シリーズの『パンどうぞ』『ケーキやけました』『コロクできました』も一緒にどうぞ。



日本のものがたり

ねこの町のリアのパン

小手鞠 るい／著 くま あやこ／絵
講談社 **ヤサシイコテ**
【小学校低学年～小学校中学年】

犬の街にすんでいるジョンソンさんは奥さんを亡くして気を落としていました。そこへいつも遊んであげているねこのお母さんから、元気を出してもらえるようにと、ねこの街のおうちへの招待状が届きました。おうちに着くとそこはパン屋でした。



パン屋では見たことも無いようなパンをごちそうになったり、たくさんのねこが働いている工房を見学したりして、ジョンソンさんはとても感動しました。次の日の朝、パン屋の前には犬のお客さんがたくさん並んでいました。それは、ジョンソンさんがお礼としてたくさんの犬の友達へ、お店の紹介状を書いたからでした。涙を誘う、温かい気持ちになれる本です。

ぐるぐるの図書室

工藤 純子・廣嶋 玲子・濱野 京子・菅野 雪虫・まはら 三桃／著 **F**
【小学校高学年～中学生以上】

茜色の貼り紙に目をひかれて、子どもたちは学校の図書室に足を踏み入れます。そこにいた不思議な女性に導かれ、彼らは本の世界へ入りこんでいきます。好きな人に渡せなかったプレゼントを渡し、完璧な一日にする



ため、図書室で見つけた本を使って主人公が同じ一日を繰り返す『時のラビリンス』ほか、5人の小学生が本と出会って体験する不思議な出来事を描いた短編が収録されています。第一線で活躍する児童文学作家5人によるリレー小説です。

ぼく、ちきゅうかんさつたい

松本 聡美／作 ひがし ちから／絵
出版ワークス **ヤサシイマツ**
【小学校低学年～小学校中学年】

小学1年生のトモヤは、病気のためベッドで過ごすおじいちゃんと「ちきゅうかんさつたいごっこ」をしています。隊員1号のトモヤは、毎日の出来事を色々観察して隊長のおじいちゃんに報告します。土手にタンポポが咲いたこと、家にいるクモ



のこと、クラスのいじめっ子のこと。そんなある日、おじいちゃんは「もうすぐうちゅうほんぶのたいいんにえられるかもしれない」とトモヤに報告します。それはおじいちゃんとの別れを意味していました。少年とおじいちゃんの深い絆に心温まるお話です。

ビブリオバトルへ、ようこそ!

濱野 京子／作 森川 泉／絵
あかね書房 **F-ハマ**【小学校高学年】

ビブリオバトルとは、「知的書評合戦」と言われ、何人かのバトルー(参戦者)が好きな本を紹介し、読んでみたい本に投票して、チャンプ本を選びます。この物語では図書室で行われるバトルの様子が描かれ、たくさんの本が紹介されます。小学5年生の



5年生の袖希(ゆずき)は、6年生の幸哉(ゆうや)に憧れて図書委員になり、幸哉に注目してもらうために、佑(たすく)、花音(かのん)、陽人(はると)たちとのバトルでの本選びに真剣に取り組みます。本の面白さを知る子どもたちが魅力的に描かれ、挿絵も生き生きとした姿が表現されています。

香菜とななつの秘密

福田 隆浩／著 講談社 **Fーフク**
【小学校高学年】

小学校5年生の香菜は、恥ずかしがりやで引っ込み思案で、人前で話すのが苦手な女の子です。一方で、人の話を聞く力や観察眼にすぐれ、人の心を理解し相手の気持ちを重んじることができる女の子でもあります。お母さんは、香菜のことを心配して、専門のお医者さんに診せ、言葉の教室にも通わせました。そして、ようやく香菜は人前で発表できたり、友達に話しかけることができるようになります。これはそんな香菜が、元来持っていた聞き上手な性格や、観察眼の鋭さを活かし、学校内で起こる出来事や事件を解決していく物語です。おばあちゃんから教わった「なるようになるもんよ」という言葉を心の支えに、香菜は今日も元気に学校でおこる様々な出来事に挑戦します。



はっけよい! 雷電

吉橋 通夫／著
講談社 **Fーヨシ** 【小学校中学年】

小学6年生の吉田太郎が、おじいちゃんと相撲を見に行った国技館で力士の下敷きになり、江戸時代へタイムスリップしてしまうことから物語ははじまります。96%の勝率を誇る力士の雷電関、天ぷら屋の千香ちゃん、治療所で働くはるかさんや、太郎にそっくりな力士の岩吉など、江戸の町で力強く生きる人々に出会い、太郎は今を精一杯生きることの尊さに気づいていきます。雷電関と小野川関の一番の勝敗の行方は？果たして太郎は無事現代に帰ることができたのか？太郎たちの賑やかな江戸での生活を、あなたも覗いてみませんか？



外国のものがたり

バクのバンバン、町にきた

ふたりはなかよし マンゴーとバンバン
ポリー・フェイバー／作 クララ・ヴリアミー／絵
松波 佐知子／訳 徳間書店 **Nーフエ**
【小学校中学年～小学校高学年】

にぎやかな都会の町に住むマンゴー・ナンデモデキルは、何でもできるかしこい女の子。ある日、町に迷い込んだバクのバンバンに出会います。マンゴーはこわがって丸くなるバンバンにやさしく声をかけ、二人は友だちになり、一緒に暮らすようになります。市長の息子のジョージとの出会いや、同じアパートに住むシンシア・メチャクチャ・アツメルによる事件、マンゴーの音楽発表会を通して、二人は絆を深めていきます。マンゴーの思慮深さ、バンバンのマンゴーへの愛、二人がお互いを思いやる優しい関係にとってもあたたかい気持ちになります。挿し絵も可愛らしく、特に、丸くなったバンバンが横断歩道にまぎれて、こぶのようになった姿は必見です。



タイガー・ボーイ

ミタリ・バーキンス／作
ジェイミー・ホーガン／絵
永瀬 比奈／訳 すずき出版 **Nーハキ**
【小学校中学年～小学校高学年】

インドの群島に住む成績優秀なニールは、奨学金を得て大都市の私立中学への進学を期待されていますが、家族や島から離れたくありません。ある日、ニールは保護区から逃げ出したトラの子が違法に売られてしまいそうになっているところを助け、父と保護区のレンジャーのもとへ届けました。ニールは故郷のために勉強したいと決意し、試験を受け奨学金を勝ち取りました。トラの密猟などの社会問題や、サイクロンや津波による自然災害に直面するインドの群島の様子が美しい自然とともに描かれています。インドの文化、家族制度、そして女性が教育を受けることが困難な社会状況などが物語を通して伝わります。



ちしきえほん

重力って……

ジェイソン・チン／作 竹内 薫／訳
偕成社 子シキ 423
【小学校低学年～小学校中学年】

「重力」ってなんだろう？そんな素朴な疑問が浮かんだことはありませんか？この絵本は、大人でも説明に苦労する疑問を、読み聞かせしながら子どもと一緒に学ぶことができます。宇宙や科学について知るきっかけづくりとしても、おすすめの絵本です。目には見えず普段意識することもあまりない、この「重力」という不思議な力について、是非親子で学んでみませんか？



さかなのたまご

いきのこりを かけた だいさくせん
内山 りゅう／写真・文
ポプラ社 子シキ 487
【小学校低学年～小学校高学年】

魚の卵は他の魚から餌として狙われています。そこで、卵を守るために魚の大作戦が始まります。外敵から卵を守るために親魚が卵を見張ります。でも、そこへ別の種類の魚が卵を産みつけて、ちゃっかりと他の魚に卵を守らせることもあります。卵を隠す方法も川底の小石の隙間に産む、貝の硬い殻の中に産む、水中に水草で鳥のように巣を作り産むなど、いろいろあります。このような珍しい水の中の世界を、清涼感のある大きな写真に、かな文字で分かりやすい説明文を添えて紹介してくれます。魚を見るのが好きな子どもも、食べるのが好きな大人も楽しめます。



ながいながい骨の旅

松田 素子／文 川上 和生／絵
桜木 晃彦・群馬県立自然史博物館／監修
講談社 子シキ 457
【小学校低学年～小学校中学年】

人間や生物の身体の中にあり、身体を様々な方向から支える骨。骨がどのようにして生まれ発達してきたのか、地球上の生物の進化を通じて骨が形成されていくまでを解説しています。身体を支える柱としての機能しかなかった骨が、大切なものを守るための入れ物としての役割をもつようになり、今では生命を維持するのに必要な血液を造る工場の役割も果たしています。生きることと環境変化は切り離して考えることはできません。骨が旅し、経験してきた環境変化がこの先も起これば、また骨は旅を続けていく（進化していく）でしょう。古代生物も色鮮やかに再現され、想像力をかきたてられます。



こうじのくるま

コヨセ ジュンジ／作
WAVE 出版 子シキ 537
【幼児～小学校低学年】

工事現場で働く車のしくみや、その働きを知ることができる絵本です。ダンプトラック、油圧ショベル、ブルドーザーなど、細やかな線で大きく描かれた絵は迫力があります。タイヤなどの車のパーツの特徴や働きは丁寧に描かれ、詳しく説明されています。次に登場する車の一部が右ページ端にちらっと見えたり、広げる仕掛けや各ページにいる5匹の小さな動物を探す楽しみがあったり、興味を引く工夫が満載です。



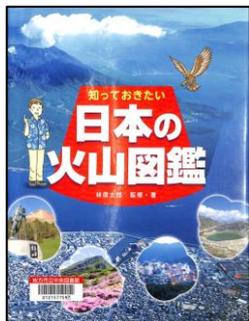
知っておきたい日本の火山図鑑

林 信太郎／監修・著

小峰書店 453

【小学校中学年～中学生以上】

火山国・日本というイメージが広まっているせいか、われわれ日本人は火山というものをあつてあたりまえと思い、あまり注意を向けていないかもしれません。日本のシンボルとっていい美しい富士山も、雄大な阿蘇山も、今後再び噴火を起こす可能性のある



活火山です。本書は火山のしくみを解説するだけでなく、日本の主な火山をとりあげて、それぞれの特徴や周辺情報をカラー写真を用いてわかりやすく解説しています。また、火山というと火砕流など災害に関する部分のみに目がいきがちですが、温泉や地熱の利用など人間にとって大きなめぐみになる面も持っています。火山の知られざる意外な実態に驚かされます。

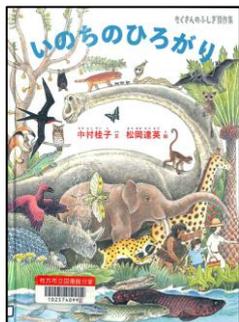
いのちのひろがり

中村 桂子／文 松岡 達英／訳

福音館書店 460

【小学校高学年～中学生以上】

あなたは、そしてあなたのお父さんやお母さんはどこから来たのでしょうか。さかのぼっていくと、20万年ほど前にアフリカで生まれた少数の人たちにたどり着きます。では、アフリカで生まれたその少数の人たちは一体どこからきたのでしょうか？さらにさかのぼると、地球が生まれてからはじめて生まれた生きものにまでたどり着きます。この本では、地球にはじめて生き物が誕生してから現在までの生き物の進化の過程をわかりやすく説明し、「生きものはみんなつながった仲間」であることを語りかけてくれます。



肉食の恐竜・古生物図鑑

食物連鎖の頂点に君臨する大むかしの生物たち

土屋 健／著 誠文堂新光社 457

【小学校中学年～中学生以上】

地球上で一番強い動物と言われて、何を想像するでしょうか。ライオンやトラを想像する人もいれば、ヒトだと思える人もいでしょう。しかし、哺乳類が地上で栄えだしたのは、6600万年前にはじまった古第三紀からで、それ以前には、両生類や爬虫類が



食物連鎖の頂点に君臨していた時代もあったのです。この本では、当時の肉食動物が他の動物を捕食する様子を、迫力あるシーンイラストで復元し、体の特徴についても詳しく記述しています。過去の生物を研究する「古生物学」の魅力に気づかせてくれる一冊です。

さくら研究ノート

近田 文弘／著 大野 八生／絵

偕成社 479

【小学校中学年～小学校高学年】

春になると日本中で桜が咲き始めます。桜前線という言葉があり、ソメイヨシノは、日本で一番植えられている桜です。また、桜は、お花見や入学式など日本人が最も楽しみに待っている木の一つです。ソメイヨシノは、花以外の葉っぱに蜜線があり、蜜を出して蟻を呼んで害虫を駆除してもらうなど他の木にはない特徴を持っています。また、食べる桜として桜餅の葉の漬け込みなども有名です。この本に、ソメイヨシノの一年間の観察記録と歳時記を詳細で色彩豊かなイラストで描いています。桜の新たな一面がわかり桜がもっと好きになる本です。



どこにいるかな？のやまのむしたち

さがしてあそぼう！かくれるいきものしゃしんえほん

安田 守／写真・文 岩崎書店 486

【小学校低学年～小学校中学年】

虫は、鳥などの天敵に食べられないように、自分の体を葉っぱや木の枝などとそっくりな姿にして隠れています。このことを「擬態」といいます。この本は、日本の野山に生息する葉っぱや枝そっくりな姿



で周りに紛れて身を守る虫たちの生きる知恵を絵探しのように楽しめる写真絵本です。草の葉っぱにそっくりなバッタ、砂のような模様の子バタ、木の枝によく似ているカミキリムシやナナフシ…。特に5ページのつぶつぶのヨモギの花にまぎれたイモムシを探し出すのは超難問です！

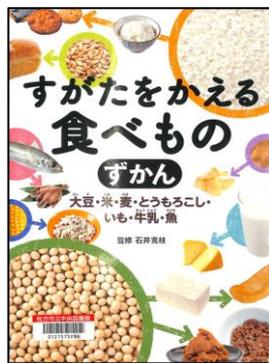
すがたをかえる食べものずかん

大豆・米・麦・とうもろこし・いも・牛乳・魚

石井 克枝／監修 あかね書房 588

【小学校高学年～中学生以上】

日常の食卓を豊かにしてくれる加工食品は何からできているのでしょうか。この本では大豆・米・麦・とうもろこし・いも・牛乳・魚の7種類を取り上げて、どのような食品に生まれ変わるのかを紹介しています。へんしんマップを見ると、一目で、原材料がさまざまな食品に変身するのがわかるようになっています。また煮る・挽く・搗く(つく)・掬う(すくう)・焼くなどの加工法によって姿が変わっていく様子を写真で丁寧に追っています。特に鰹から作られる鰹節は、発酵・燻す等さまざま過程を手間と時間をかけて作られているのがわかります。完成した食品から原材料をたどっていくのは難しいですが、この本を読むと、毎日の食を通じて、先人の知恵や栽培した農家の人たち、食品の加工に携わる人たちへの感謝の気持ちが生まれます。



シリーズ「ゴミと人類」

過去・現在・未来①「ゴミ」ってなんだろう？

稲葉 茂勝／著 あすなろ書房 519

【小学校中学年～小学校高学年】

「ある人のゴミも他の人には宝」と言われるように、人によって異なるイメージのゴミを、事典・辞書類で調べたゴミの語源などから「ゴミ」とは何かとその基礎知識を探ります。人々の歴史とゴミは密接に関わっており、人の屎尿(ししょう)(うんこ・おしっこ)



も肥料として使われた時代もあるなど、時代や社会などの変化で相対的に決まるゴミの価値について考えます。

シリーズ「ゴミと人類」過去・現在・未来

②「日本のゴミと世界のゴミ 人類とゴミの歴史」

③「5R+1Rとは？ ゴミ焼却炉から宇宙ゴミまで」

人々との歴史からゴミを考えるシリーズ全3巻です。

美術ってなあに？

スージー・ホッジ／著 小林 美幸／訳

河出書房新社 700

【小学校高学年～中学生以上】

古代の壁画から現代美術まで、傑作とされる美術作品を先入観なしで見たときに、素直に湧き上がる感想を軸に編集された美術鑑賞ガイドです。美術史の流れに沿って編集されたのではなく、素朴な疑問ごとに編集されている点が、この本の珍しいところ。「アートって、どうしてはだかの人だらけなの？」「こんなの、ぼくの妹だってできるってば！」「彫刻にはブサイクなやつもあるの？」などと大人の方も童心に帰って素直な気持ちで美術と向き合ってみませんか？

